

主婦の着衣実態調査

日本女大家政 犬野静枝 林久美子
青葉学園短大 ○石井照子

目的 女子学生の着衣実態についての調査は既に報告されているが、家庭で働く主婦の着衣の現状調査は少ないようである。今回、既報の女子学生の实態調査を参考に東京都内ならびに近郊に在住する主婦の室内における着衣調査を行い、女子学生の室内着衣実態と比較検討した。

方法 調査方法は、着衣内容を詳細に記入できる調査用紙を配布し記入させた。調査内容は、被調査者の条件、調査日の室内温湿度、着用感、被服形態、被服素材、着衣順位、着衣重量などである。調査期間は、昭和57年5月～58年4月までの各月の中旬以降のある1日の記録である。年齢は、30～50才の専業主婦23名である。

結果 各月の室内の平均気温は表1の如くである。夏は、8月が最高の28.7℃、冬はほぼ17～18℃に保たれている。着衣重量は、表1に示されるようになり、平均室温に依存しており、女子学生着衣重量と比較すると、春・秋の差が大きく、女子学生の方が

表1 各月の平均室温と平均着衣重量

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均室温(℃)	18.1	17.4	18.6	20.7	23.3	24.5	26.2	28.7	23.2	21.7	18.9	17.3
平均着衣重量(g)	1208	1204	1156	883	758	628	500	468	634	867	1050	1137

170～249g、夏は141g、冬は88g多かった。また着衣の特長としては、活動的な衣服の着用や保温効果を考えた下着やくつ下による重ね着などがみられた。7・8月において四肢部に局所的な寒冷感を訴えたものがいたのも女子学生には見られなかった特長である。